

## ◇鉢植えの自動灌水装置と新型コロナ

大槻伸次

約 20 年前、定年時のダイヤモンドプランに参加するにあたり長期に家を留守にするため、鉢植え（私の盆栽擬きと妻の草花の鉢植えを多く栽培）の水遣りをどうするか課題となった。

それまで 2 泊 3 日程度の旅行を計画すると、義母が喜んで留守番に来て世話をしてくれた。

しかし、ダイヤモンドプランは期間が長く、定年後は海外旅行も、という考えもあるので、これからも義母に甘えるわけにはいかない。

そこで、自動で水遣りができる装置を導入するしかないとなった。善は急げで、早速本屋で参考書を開いてみてみたところ、小さな穴の開いたチューブに圧のある水を通し、一定時間鉢に水をやる方法があった。これはベストな方法だと思ったが、我家の植木場に上手くマッチさせて作るには相当の手間がかかるようで早々に諦めた。他に、よい方法はないか考えた末、思い付いたのが、鉢の上から散水する方式だった。というのは旅行期間が最長でも 2 週間程度なので草花には最適でないが、簡単に作れそうなので、噴水式の自動灌水装置に決めた。

自作したのは、市水道の水圧で灌水するもので構成は制御部、電磁水バルブ 2 基、噴水ノズル 8 本×2 系統、そして電磁水バルブと噴水ノズルを繋ぐビニールホースで成り立っている。灌水システムを 2 系統にしたのは、市水道の水圧に対して最適な噴水量にする為で、タイマーで電磁水バルブを切り替えるようにした。

制御部はダイソーで買ったプラケースに 24 時間タイマー（現在は 1,000 円以下の物を売っている）と通常のタイマー 2 個（噴水の微調用可変 1 分計）、電磁リレー 2 個を取り付け配線されたもので、誤動作や簡単に壊れるものでないので特に問題になることはなかった。2 個の電磁水バルブは、外流しの蛇口をはずして、ホームセンターで購入した配管類と止栓バルブで構成、電磁水バルブから各噴水ノズルへの配管は普通のビニールホースを使って配管した。噴水ノズルは、もともと洗車や水撒き用で、ダイソーで買った。噴水ノズルを取り付ける支えはダイソーの園芸用の支柱を使い土に差し込み灌水ノズルはクイックタイで支柱上部に固定した。

■写真・上から噴水ノズルからの噴水時の状態、中は制御部、下は電磁水バルブ



定年時のダイヤモンドプランは私達夫婦の初の海外旅行先で、オーストラリアを選択した（4月下旬）。そこで旅行出発前までになんとか自動灌水装置らしきものを完成させようと急いだ。そこで、完成後のエージング期間があまりとれなかったので留守中にバルブの装置の故障、停電、断水などいろいろなトラブルが心配だった。他に、夏場とそうでない時は灌水量と回数の変更しなければならないが、どれくらいの設定がいいか分からないので多めの設定にするしかなかった。

帰国後、鉢植えの植木を点検したところ全て無事ですごく安堵した。その後、20年近く使用してきたが灌水ミス（真夏、トルコ周遊で15日間留守にしたこともある）もなく植木は現在も健在である。ところが、灌水装置は旅行時以外あまり使わないので、噴水ノズルへのゴミやのろ等の付着や混入により、噴水ノズルの噴水状態（水を霧状にする為、微調が必要）が変化してうまく灌水できなくなってしまうので、旅行前にはびしょ濡れになりながら慎重な再調整が必要になる。

或る時、早春に旅行を計画したはいいが、その年は春先の冷え込みが厳しくて電磁水バルブ等の防寒対策が甘くて、夜中に高価な電磁水バルブと止水栓が凍結させてしまって止水栓は破損し電磁水バルブは本体の真鍮鑄物に変形し水漏れで使用不能となってしまったことがあった。この時は旅行の時期が差し迫っていたので大慌てとなり、通販の「モノタロウ」にネットで電磁水バルブを注文し、何とか旅行までにセーフとなったが、エージングなしの使用は旅行中動作トラブルが無いのかが、一番の心配だった。旅行中、万が一装置や断水などの水のトラブルにあったら植木はひとたまりもなくやられてしまうこと請け合いである。

そして、あのダイヤモンドプランから、海外は年1回程度（18回、26か国訪問）と国内旅行に数十回出かけたが、一度もトラブルに遭遇しなかったのは幸いだった。

そこで、令和元年は、我々夫婦にとって結婚50周年で、健康で迎えられた記念として暫らく中断していた欧州行きの海外旅行を計画したが、何処にしようかなかなか考えが纏まらず年が明けてしまった。（最近では近場のアジア方面）

考えが纏まらなかったというのは、年齢の事を考えると最後の海外旅行になるかもしれないから行き先の選定に慎重になっていたのである。そうこうしているうち平穩に令和2年が明けて、この辺で行き先を決めようとしていた矢先のこと、降ってわいたように「新型コロナ肺炎」騒ぎが持ち上がってしまったのである。

ずっと以前、平成15年の早春に海外旅行を計画したが、この時は世界的なSARSの流行騒ぎでやはり旅行計画を延期せざるを得なくなったことがあった。このときは流行地域が限られていたので心配しながら旅行に参加したが、何事もなく行って来られた思い出がある。ところが、今回流行の新型コロナ肺炎は世界的な流行と第2波、第3波が予想され当分収束の見込みがないようで、長くお世話になった自動灌水装置の本領発揮の出番は無くなり、今後も出かけられる予定は全く立たないから、残念であるが海外旅行はこの辺で打ち止めになるかなと考えている今日この頃である。

（2020年6月17日記）